

平成29年度人権問題都民講座「音楽から人権を考える」▶▶

音楽をテーマに、多角的に人権を考える連続講座を開催します。それぞれ個性的な研究領域を持つ講師による3つの講座は、いずれも楽しみながら学べるものばかり。この機会にぜひ、新しくなった東京都人権プラザ本館にお越しください。

第1回 平成29年 7月15日・土曜日 14:00 - 16:00

警女唄（ごぜうた）とは何か 時代と民衆の声を聴く
講師：ジェラルド・グローマーさん（山梨大学大学院教授）

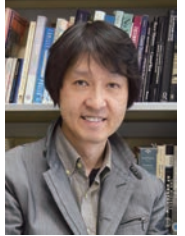
紺がすりに丸笠、三味線伴奏で歌う盲目の旅芸人、警女（ごぜ）。昭和初期まで各地で見られたその姿も今は失われて久しい。家々をめぐる門付けから物語歌まで、近世以来常に流行をレパートリーに加えながら生き抜いてきた芸能集団の渡世の実態を知ること、障害者をめぐる当時の社会の在りようや、「歌を聴く」という文化の変容を考える。



第2回 同 8月26日・土曜日 14:00 - 16:00

歌謡曲から見える私たちの社会 時代の変化とジェンダーの関係
講師：舌津智之さん（立教大学文学部教授）

時代の空気を敏感に映し出す流行歌。1970年代以降の歌謡曲の歌詞を材料にして、メディアを通じて拡散され続けていた理想の恋愛像や結婚観、家族をめぐる関係性、そして人間を呪縛する「男らしさ」や「女らしさ」といった既成の価値観とその揺らぎについて、講師とともに考える。人々が抱くジェンダーの意識に対し、大衆芸術はいかなる影響を及ぼしたのだろうか。



第3回 同 9月23日・土曜日・祝日 14:00 - 16:00

音楽における黒人文化 アメリカ奴隷制の時代からキング・オブ・ポップまで
講師：ウェルズ恵子さん（立命館大学文学部教授）

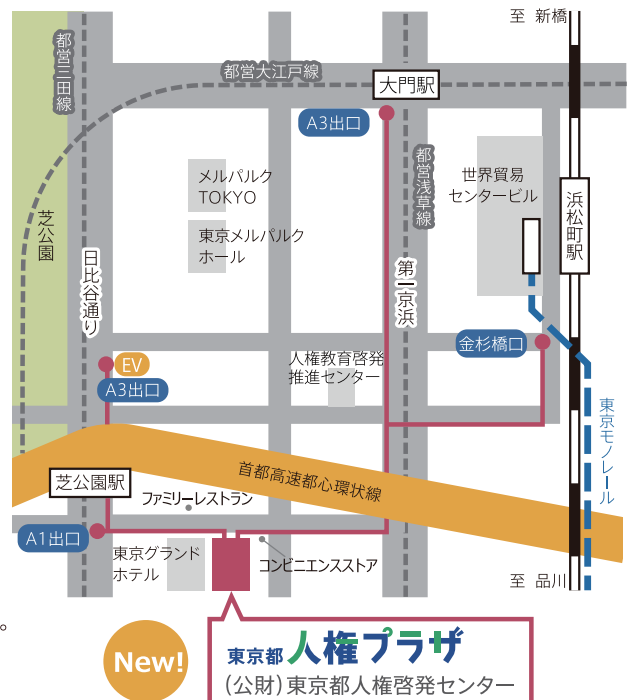
ゴスペル、ブルース、ジャズ、ソウル、R&B、ヒップホップ…。さまざまなジャンルを持つブラックミュージックについて学べば、それが差別を受けてきた黒人の生活や歴史から生み出された文化であることが理解できる。日本でも、戦後のジャズエイジから歌謡曲へ。また現代の若者ファッションへの影響など、世代を越えて私たち日本人を惹きつける黒人文化の深層について、講師とともに学ぶ。



【会場案内】

東京都人権プラザ 本館 セミナールーム
港区芝2-5-6 芝256スクエアビル 1F

- 都営三田線「芝公園駅」A1出口から徒歩3分
車いす・ベビーカー等ご使用の方はA3出口エレベータをご利用ください。
- 都営浅草線・大江戸線「大門駅」A3出口から徒歩7分
- JR・東京モノレール「浜松町駅」金杉橋口から徒歩8分



※応募者多数の場合は抽選となります。申込締切日は平成29年7月8日（必着）とし、ご参加いただける方へ受講票をお送りします。なお、ご提供いただいた個人情報は、申込手続以外使用しません。

申込みフォーム

FAX 03-6722-0084
メール fukyu2901@tokyo-jinken.or.jp

①お名前(代表者)	参加人数	
	人 (お申し込み1件につき2名まで)	
②ご連絡先 (いずれかお選びいただき、ご記入ください。)	電話	FAX
	メール	@
③ご住所・ご所属	〒	
④情報保障・託児等の希望	有・無	【希望内容】
⑤参加希望講座(○で囲む)	第1回(7月15日) ・ 第2回(8月26日) ・ 第3回(9月23日)	